

1 - b ヘルペスウイルスの胎児新生児への影響

東京大学医学部産科婦人科学教室

川 名 尚

研究目的

性器ヘルペス症を合併した妊娠では、ヘルペスウイルス (Herpes Simplex Virus, HSV) の胎児・新生児への影響が問題になる。HSV の子宮内感染による胎児感染の結果おきる奇形の発症と分娩時に産道内で感染した HSV による新生児全身性ヘルペス症の発症が具体的な問題である。本研究では、妊娠初期の性器ヘルペス症合併妊娠では奇形が発症するか否かと新生児全身性ヘルペス症をどのようにして回避するかの管理方法を検討することを目的とした。

研究方法

性器ヘルペス症を診断するため、性器より採取した材料からヘルペスウイルスを分離・同定して行った。ウイルスの分離には、単層培養した Vero 細胞を用い分離したウイルスの同定は血清学的方法によった。HSV と同定されたものは、抗 HSV-1、抗 HSV-2 血清を家兎又はモルモットによって作製して HSV-1 か HSV-2 の型を決定した。

血清抗体は、中和曲線法により、抗 HSV-1 と抗 HSV-2 を分けて測定した。標準 HSV-1 株として、HF 株、標準 HSV-2 株としては、UW-268 を用いた。

研究対象は、東大病院産婦人科を訪れた妊娠中に性器ヘルペス症を発症した 18 例の妊婦である。

研究結果

1. 妊娠に合併する性器ヘルペス症の病因論

HSV-1 による性器ヘルペス症の 7 例のうちウイルス分離時に抗 HSV-1 と抗 HSV-2 抗体とも共に検出されなかった初感染例が 2 例あった。このうちの 1 例は、子宮頸管からも HSV-1 が分離された。

HSV-1 分離時に抗 HSV-1 が検出された例が 5 例あったが、これらは、既に感染していた HSV-1 が誘発されたと考えられる。これらのうちから、1 例に頸管からも HSV-1 が分離されている。

HSV-2 の性器ヘルペス症を合併した 11 例のうち 3 例は初感染で、これらのうちの 1 例に頸管からも

HSV-2 が検出されている。次に、抗 HSV-1 を有している妊婦が、HSV-2 に感染した場合は、HSV-2 の初感染と考えられる。2 例中 1 例に頸管からもウイルスが分離されている。残る 6 例は、妊娠により誘発されたと考えられる例である。これらの例では頸管からのウイルスの排出はなかった。

2. 子宮頸管からの HSV 分離陽性例の検討

外陰部の性器ヘルペスが証明される例のどの位に頸管内にウイルスが分離されるかを検討した。34 例の外陰より HSV が分離された例のうち、子宮頸管からも HSV が分離された例が 5 例あった。その内の 4 例は、初感染で 1 例が誘発型であった。

性器ヘルペス症を合併した妊婦について臨床的にヘルペス症が治癒した後にどの位の頻度で子宮頸管からウイルスが分離されるかを検討した。61 例中子宮頸管より分離された例は、1 例もなかった。

3. HSV 分離より分娩までの期間と児の予後

HSV を最後に分離してから分娩までの期間と分娩様式と児の予後をみた。

初感染例では、17 日目の例が帝切になった他は、経膈分娩であった。再発型では、19 日目で経膈で成功した例もあるが、6 週間経ているにも拘らず帝切を行った例もある。誘発型では、20 日目の例が帝切になっているが、22 日目、29 日目で経膈分娩に成功している例もある。

今回は、18 例全例に児は、奇形はなく、又新生児ヘルペス症も発症せず健児を得た。

考 察

妊娠中の性器ヘルペス症は、病的に二つある。一つは、外来の HSV による初感染、もう一つは、潜伏感染していた HSV の再活性化によるものである。この鑑別には、ウイルスを分離した時の血清抗体価を測定すればよい。この際、抗体を型別に測定する必要がある。初感染例は、外陰部だけでなく、子宮頸管からもウイルス分離ができるので、産道内で HSV に感染

する危険性が強いので、十分、注意すべきである。

次に子宮頸管からの HSV の分離であるが、外陰部に病変が全てない場合は、頸管から HSV が分離された例が今回の研究では全くなく外陰部の病変が治癒していれば、経膈分娩が可能であることを示している。

HSV を最後に分離してから初感染では14週以上経ていれば経膈分娩でよい。再発型・誘発型では、20日過ぎていれば経膈分娩が可能と考えられた。今回再発型の K K 例、誘発型の Y R 例が共に帝切分娩になっているが、現在のデータから考えると経膈分娩でも健児が得られたのではないかと思う。

要 約

1. 妊娠初期の性器ヘルペス症合併妊婦例 7 例から生まれた児に奇形はなかった。この中には、5 例の初感染例が含まれている。
2. 性器ヘルペス症を合併した妊婦は、HSV の分離により診断を確定すると共に、血清抗体を測定し、その病型を決定する。そして、初感染の場合、最後にウイルスが分離されてから一ヶ月以内の分娩は、帝切が安全であろう。

しかし、誘発型・再発型の場合は、最後にウイルスが分離されてから2週以上経ていれば経膈分娩が可能と考えられる。

妊娠に合併する性器ヘルペス症の病因論

名 前	妊 娠 週 数	H S V の 型	ウ イ ル ス 分 離 時 の		頸 管 からの ウ イ ル ス 分 離
			抗 H S V - 1	抗 H S V - 2	
U J	4	1	-	-	-
Y M	14	1	-	-	+
T M	5	1	+	-	+
D K	7	1	+	-	-
S M	19	1	+	-	-
U M	28	1	+	-	-
K I	33	1	+	-	-
K N	4	2	-	-	-
N Y	5	2	-	-	+
H H	39	2	-	-	-
K R	20	2	+	-	-
I Y	21	2	+	-	+
T M	5	2	+	+	-
O E	6	2	+	+	-
K K	19	2	-	-	-
H Y	26	2	+	+	-
N R	29	2	-	+	-
Y R	35	2	+	+	-

頸管からHSV分離陽性例の解析

外陰分離		頸管分離	
陽性	34	陽性	5 { ⁴ / ₁
		陰性	29
陰性	61	陽性	0
		陰性	61

HSV分離より分娩までの期間

名前	HSVの型	感染型	HSV分離より分娩までの期間	分娩様式	児
H H	2	初	17 D	C・S	正
I Y	2	〃	14 W	V	〃
K R	2	〃	20 W	V	〃
Y M	1	〃	25 W	V	〃
K N	2	〃	36 W	V	〃
U J	1	〃	36 W	V	〃
O E	2	再	19 D	V	〃
K K	2	〃	6 W	C・S	〃
T M	1	〃	19 W	V	〃
D K	1	〃	31 W	V	〃
T N	2	〃	34 W	V	〃
Y R	2	誘	20 D	C・S	〃
H Y	2	〃	22 D	V	〃
K I	1	〃	29 D	V	〃
U M	1	〃	10 W	V	〃
N R	2	〃	11 W	V	〃
S M	1	〃	22 W	V	〃



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

1. 妊娠初期の性器ヘルペス症合併妊婦例 7 例から生まれた児に奇形はなかった。この中には、5 例の初感染例が含まれている。
 2. 性器ヘルペス症を合併した妊婦は、HSV の分離により診断を確定すると共に、血清抗体を測定し、その病型を決定する。そして、初感染の場合、最後にウイルスが分離されてから一ヶ月以内の分娩は、帝切が安全であろう。
- しかし、誘発型・再発型の場合は、最後にウイルスが分離されてから 2 週以上経ていれば経膈分娩が可能と考えられる。